

生葉上地衣類ニセサラゴケ属 *Semigyalecta* の分類学的所属

○宮澤研人<sup>1)</sup>・大村嘉人<sup>2)</sup>・山岡裕一<sup>3)</sup>・<sup>(1)</sup>筑波大生物資源学類；<sup>(2)</sup>国立科学博物館；<sup>(3)</sup>筑波大生命環境系

Taxonomic position of Genus *Semigyalecta* Vain. (Ascomycota) by K. Miyazawa<sup>1)</sup>, Y. Ohmura<sup>2)</sup>, Y. Yamaoka<sup>3)</sup> <sup>(1)</sup> College of Agro-Biological Resource Sciences, University of Tsukuba; <sup>(2)</sup> National Museum of Nature and Science; <sup>(3)</sup> Faculty of life and Environmental Sciences, University of Tsukuba)

生葉上に生育するニセサラゴケ属 *Semigyalecta* は、ニセサラゴケ *S. paradoxa* の一種のみで構成される。本属の分類は、痂状の地衣体と単一の側糸を含むレキデア型の子器に基づきサラゴケ科 (Gyalectaceae) に属するという見解と、子嚢壁が厚く、子嚢先端ヨード染色部位 (tholus) が発達することなどからゴイシゴケ科 (Lecideaceae) に属するという大きく異なる見解がある。また、本菌は、スミレモ科 (Trentepohliaceae) の、おそらく *Phycopeltis* を共生藻とする見解と、藻類とは共生関係にないという見解があり、地衣化菌かどうかははっきりしていない。本研究では、2019年に実施した西表島における現地調査により、新鮮な材料を得たので、菌および藻の形態観察および分子系統解析を行い、本属の分類学的所属および地衣化が起こっているのかについて明らかにすることを目的とした。光学顕微鏡で子嚢先端のヨウ素反応を観察したところ、染色パターンは Pilocarpaceae の特徴である Byssoloma-タイプであった。また、走査型電子顕微鏡を用いて、菌糸と藻細胞の関係を観察したところ、菌の吸器によって両者が強く接触している様子が確認された。試料より DNA を抽出し、菌の rDNA LSU(1606 bp)、藻の rbcL(1312 bp) の塩基配列を決定し、分子系統解析を行った。その結果、菌は Pilocarpaceae のワタヘリゴケ属 *Byssoloma* との関連性が支持された。一方、共生藻はトレボウクシア藻綱 (Trebouxiophyceae) に関係があることが示された。これまでも、ワタヘリゴケ属はトレボウクシア藻綱の共生藻を持つとの報告がある。以上の結果より、ニセサラゴケ属は、Pilocarpaceae のワタヘリゴケ属に近縁または同属である地衣化菌であることが示唆された。